
編集後記：最近、「天気」の冊子の厚さが薄くなったような気がします。これは記事の減少のためなのかと思います。過去の「天気」の年間ページ数を調べてみました。1990年代は概ね800～900ページであるのに対し、2000年代は900～1000ページで、ここ3年間は1000ページを超えています。そういえば、「天気」は2007年に用紙を上質紙からマット紙に変更しました。紙の重さは同じということでしたが、厚さに微妙に差があるようです。記事の減少ではないことがわかり、編集に携わるものとしてほっとしています。

「天気」は読者の皆様のご投稿に支えられています。かく言う私は近頃、筆を執るのが億劫になっています。私が勤めている職場は三浦半島の先端にあり、西に富士山、東に房総半島を望み、その周りに発生する雲の動きを観るだけでも様々な現象が観察でき、筆

を起こす材料には事欠きません。ただし、データ不足などの理由により、論文にするには今一步のようです。

「天気」には「調査ノート」というコーナーも新設されています。投稿案内を見ると、気象に関連する興味深い現象や事実を紹介する、とあります。実際に掲載された「調査ノート」を拝読すると、論文に近い難しい内容が多いようですが、ダメもとで、職場から見える現象を紹介する記事を投稿してみようかと考えています。皆様も気軽に投稿されてみてはどうでしょうか。何気なく観ていた現象が、実は大発見、そうでなくとも誰もが興味を抱く現象で、どなたかの研究の動機、ひいては気象学の発展に貢献するかも……。

(中西幹郎)